

第13回宮城県総合教育会議 議事録

令和7年9月19日作成

- 1 会議名 第13回宮城県総合教育会議
- 2 開催日時 令和7年9月1日(月) 午前11時から午前11時30分まで
- 3 開催場所 県庁 行政庁舎9階 第一会議室 仙台市青葉区本町3丁目8-1
- 4 出席者 別紙「出席者名簿」のとおり
- 5 概要 以下のとおり
 - (1) 開 会
 - (2) 挨拶(知事:村井知事)
 - (3) 議 題(議長:村井知事)
これからの宮城を支える人材育成について
資料に基づき説明
(説明者:永田 高校教育創造室長)
 - (4) その他
 - (5) 閉 会

1 開会

【司会】

それでは始めさせていただきます。

教育委員の皆様におかれましては、本日は大変お忙しいところ、第13回宮城県総合教育会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。本日の会議は運営要綱第5条の規定に基づき公開となっておりますので、ご了承願います。また、ご発言用にマイクを用意しております。発言の際には担当者がマイクをお渡しいたしますので、お知らせ願います。

それでは、ただ今から会議を開催いたします。開会にあたりまして、村井知事から挨拶を申し上げます。

2 挨拶（村井知事）

皆さん、おはようございます。本日は大変お忙しいところ、教育委員会の皆様のご出席を賜り、誠にありがとうございます。

本日の会議では「これからの宮城を支える人材育成について」を議題とさせていただきました。本県では、急速な少子化、人口減少を迎える中、富県宮城を支える県内産業の持続的な成長促進、それを担う人材育成が極めて重要であり、様々な取組を講じております。

教育委員会では、教育ニーズが多様化していること、産業構造が複雑化し、求められる人材像が変化していることなどを踏まえ、次期県立高校将来構想の策定を前倒しで進めていると承知しており、社会変化に対応した魅力ある人材育成を図るためにも、教育のさらなる充実が必要でございます。

本日は委員の皆様から忌憚のないご意見を頂戴したいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

—以下議事—

3 議題

【司会】

それでは議題に入らせていただきます。議長につきましては運営要綱第4条の規定に基づき知事が務めることとされておりますので、村井知事にお願いいたします。

【議長】（村井知事）

皆様、よろしくお願い申し上げます。それでは、議題「これからの宮城を支える人材育成について」、まずは事務局から説明をしていただきたいと思います。

【事務局】（永田高校教育創造室長）

高校教育創造室の永田と申します。それでは、資料に基づいて説明をさせていただきます。「これからの宮城を支える人材育成について」として、次期県立高校将来構想「高校教育の創造的な再構築」に向けた柱となる取組についてご説明申し上げます。

県教育委員会では、平成31年2月に現構想である第3期県立高校将来構想を策定し、「志を育む教育」の推進や地域のニーズに応える高校づくり、生徒数の減少に対応した学級減や学校再編などの高校教育改革を推進してまいりました。しかしながら、本県の中学校卒業生数は今後大幅な減少が見込まれており、少子化が急速に進展する中、地域産業を支える人材育成に向けた産業分野の学びなどをどのように確保していくのかというところが喫緊の課題となっております。こうしたことから、現構想の計画期間の終了を待たずに新たな県立高校将来構想を策定するため、昨年2月に審議会に諮問し、これまで検討を進めてきたところです。

先月開催いたしました県立高等学校将来構想審議会において、次期将来構想の答申の骨子が示されましたので、主な取組の内容について説明を申し上げます。お手元の配布資

料をご覧ください。次期県立高校将来構想といたしましては、全ての生徒の可能性を最大限引き出す質の高い高校教育を実現するため、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るものとしており、少子化の急速な進行などの社会経済環境の変化を直視しながらも、持続可能な教育環境を整えるものとされております。

取組の方向性は大きく4つとしており、1点目は「学力と探究を極め、進学力も向上させる環境の整備」というもので、高い学力と探究力を兼ね備え、難関大へも挑戦できる人材を育成する拠点校を設置するというものです。

2点目といたしましては、「専門学科の学びをより実践的なものにしていく」ということで、農業と工業は大学や民間企業との連携をさらに高め、先端技術に関する学びを充実させるために、科学技術高校を設置するというものになります。また、地域産業を担う人材育成の必要性から、複数の学科を掛け合わせるなどして幅広く学ぶなど、より実社会と結びついた学びの機会を提供するというのも進めていくものになります。

3点目は「多様な学びのニーズへの対応」といたしまして、アイデアルスクールの実績を他地域でも展開していくということ。また、インクルーシブという観点からも、共生社会の実現に向け、配慮や支援が必要な生徒のための環境を整備していくということも盛り込んでいくこととなっております。

4点目は「オンラインの効果的な活用などによる教育空間の拡張」といたしまして、仮に名称をオンライン教育センターとしておりますが、こうしたものを設置し、小規模校をはじめとする学校での学びの質の確保を図るという内容となっております。

次期構想においては、従来の生徒数の減少に合わせた単なる学級減や再編統合ではなく、各圏域に必要となる学びの在り方を一から考え、生徒が切磋琢磨し合うことができる学習環境を整備していくために、県立高校の創造的再構築を行うこととしております。事務局からの議題の説明は以上でございます。

【議長】(村井知事)

ありがとうございました。ただいまの説明は教育委員会の取組に関する内容でございましたので、まずは私の方から考え方、意見を述べさせていただきたいと思っております。その後、委員の先生方からご意見をいただきたいと思っております。

高校教育の置かれた状況といたしましては、一つは少子化の進展がございます。事務局から説明がありましたように、今後15年間で相当、子供が減っていくということでございます。現状でも産業人材の確保は大変厳しくなっており、高校卒業者の就職者数が減少することで、企業の人材不足が恒常化しており、生産性向上への対応も求められるなど、企業の対応も変化しているところでございます。こうした状況から、高校教育の段階から実社会を見据えた実践的な学びをさらに取り入れていくことは、非常に重要であると思っております。相当なスピードで社会経済環境は変化し続けておりますので、実際の企業活動を見据えた時に、先端技術に関する学びを充実させていくことも重要であり、これには大学や企業との連携が不可欠です。柱となる取組のうち、今ご紹介いただきました科学技術高校に関しましては、宮城県内でも東京エレクトロン宮城など、世界を舞台に戦って

おりますグローバル企業がございます。この間、インドのモディ首相が視察に行かれました。やはり世界的に注目されております。科学技術高校で先端技術やデータサイエンスなどの要素を学び、最先端の研究開発だけではなく、生産技術や品質保証などの分野で、こうした県内企業の成長を支える人材の育成につながっていければと思います。やはり、あのような企業で働くのは、かなり能力がないと働けないらしく、高校卒業者なら誰でもいいというものでは決してないということでした。また、東京エレクトロン宮城だけでなく、そのサプライチェーンを構成する企業、また、トヨタ自動車東日本、アルプスアルパインなど、数多くのグローバル企業も宮城県内で活躍されており、高度な知識やスキルを持った人材を必要とされております。県内の高校生が将来的にそういったフィールドで活躍してもらえれば、生徒やその保護者にとっても、また県内企業にとっても、皆Win-Winになるのではないかと思います。

また、工業だけでなく、農業分野におきましても、スマート農業の導入など、これまでとはやり方が異なってきており、デジタル技術の活用などによる生産管理や品質管理の必要性が増しております。一方、地域に根ざした産業を支えていく人材の育成も欠かせません。こちらも6次産業化など、農業や水産と商業の掛け合わせなどによって、社会に出た時に役立つ知識の習得が必要です。そのため、分野を横断して学ぶことができる環境を整えることが求められていると私も思います。このように、実社会を意識した地域産業を支える人材育成の他、大学や民間企業との連携によって研究や技術の高度人材を育成していくことが一層必要になっていくので、高校教育におきましても、これまでの専門高校の枠にとらわれず、科学技術高校を設置するという考え方は大変重要な発想だと思います。今回示されました取組を進めることで、富県宮城を支える人材を育成していくことが肝要でございます。

県内には私立高校もございますが、宮城県の公立高校のこれからの役割としましては、科学技術高校をはじめとする専門高校に加え、例えば進学校であったり、多様な学習ニーズへの対応が必要な子供たちのための学校、そういった取組が柱になってくるべきだと私は思います。その際、地域にどのような学びが必要か、地域の方々の声をしっかりと受け止め、それが生徒にとって魅力的なものとなるよう、各地域での学びの在り方について考えていく必要があります。このような点を踏まえ、現在審議会で議論されております高校教育の創造的な再構築を推し進めていくことが必要ではないかと私は考えているところです。私立高校は今後学費がかからなくなる見込みであり、非常に進学しやすくなりますので、公立高校と私立高校で棲み分けをしていく必要があるのではないのでしょうか。そういった意味で、私立ではできない分野、こういった分野に特化して、公立高校のこれからの在り方を考えていくことが必要であると思われまます。そういった点も含めまして、これから先生方から様々なご意見を伺いたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げたいと思います。

せっかくですので、順番ではなく、挙手で「我こそは」という方からご意見をいただきたいと思っております。いかがでしょうか。では、小川委員、お願いいたします。

【教育委員】（小川委員）

ご説明ありがとうございます。全く知事が仰る通りで、今後の高校の再編、将来構想に関わる重大な問題だと考えています。私立高校へ流れる生徒さんが多く、また通信制高校へ流れていく生徒さんも多いため、やはり県立高校の魅力化が一番大きな課題だと思います。我々大人が将来の人材育成についていくら考えても、高校の教育自体に魅力がなければ人は集まりません。この魅力化が一番大きなテーマであると考えています。私も生徒や学生と接する中で、彼らが授業の中で楽しそうに取り組んでいる場面がいくつかあります。一つは、目の前に作業をするものがある、それが面白いということです。それは何であっても構いませんが、一方的に講義で話を聞くというのは退屈するでしょうし、我々大人もそうだと思いますので、何か目の前にあるものに対して一生懸命取り組むという課題があると、非常に熱心に取り組んでいます。そういった課題をどれだけ設定できるかということが、高校の魅力化に関わることだと考えています。農業、工業、林業、水産業といった専門分野は、実務なのでやはり目の前にあるものに対して取り組める、例えばものづくりであったり、農業であれば野菜や果物、園芸といった目の前にあるものをいかに作っていくか、より良いものにしていくかということに関しては、生徒は非常に熱心に取り組んでくれます。したがって、そういった課題をどれだけ設定できるかということと、それが最先端の技術とどう結びつけられるかということが大きなテーマであると思います。

もう一つ、高校生が楽しそうに、笑顔で取り組む場面として、他校の高校生と交流を持つ場面があります。自分たちの学校を超えて他の高校生と交流を持つというのは何か面白いものがあるようです。自分たちがこんなことをやっていると話すと、「あなた方の学校ではどうですか」といった具合に、他の学校でやっていることなども参考になり、「それだったらうちの学校でも取り組める」と交流がある場面では、生徒は非常に面白そうに取り組んでいます。そんな風に考えると、学びの場は学校や校舎の中だけではないのだと。地域も学びの場であり、企業に赴いて取り組んだり、最先端技術に触れたりしながら、学んでいくのも一つの学びの場であると思いますので、校舎の中だけを学校と考えない方が良いのではないのでしょうか。地域や企業、大学の研究機関なども含めて、街全体が学校という発想で、この再編が進められたら良いなと願っております。以上です。

【議長】（村井知事）

ありがとうございます。大変示唆に富むお話でした。皆さんの話を聞いてから、私の意見もまたお話ししたいと思います。福興委員、いかがでしょうか。

【教育委員】（福興委員）

色々お話を伺い、私も同感するところが大変多かったです。一つ気になるとしたら、就業を見据えた人材育成というアウトカムから考えられている点です。育成は確かに大事ですが、一方で今現場で困っている実際の子供たちは、将来どうなるのか、自分は将来どうしたいのかわからないということが悩みで、学校に行けなくなってしまうお子さん

が多いのも事実です。よって、今回資料に書かれているような、難関大や企業への就職を目標にしてしまう教育では、もしつまずいてしまった時に立ち直れなくなってしまう懸念があります。ですので、あくまでも高校は自立のための一つの通過点に過ぎない。しかし、先ほど小川委員がおっしゃったように、魅力ある高校であれば尚更良いわけです。通過点の一つに過ぎないけれども、県としては県民であるお子さんの自立をみんなで応援しているという姿勢を全面的に出すようにすると、県立高校の魅力はもっと高まるのではないかと感じました。以上です。

【議長】（村井知事）

ありがとうございます。ごもっともだと思います。では、いかがでしょうか。鳩原委員。

【教育委員】（鳩原委員）

専門学科における実践的な学びというところですが、その中で、より実生活に結びついた学びの機会を保障していくこと、いずれ生徒が卒業した後に社会に入っていくことを目指していくというのは、今、福興委員からも少し話がありましたが、多様な学びへのニーズに対応するという点も大変重要であると考えています。これまで各高校、私立県立を問わず取り組まれてきた、多様な状況の生徒への対応、つまり障害の有無、あるいは発達障害なども含め、診断名がないケースも大変多い中で、学校は不登校なども含めて、丁寧に対応してきております。しかし、県立として、本当に多様な学びのニーズに対応していく、こういった学校を作っていく、もちろんアイデアルスクールとして作り、それを一つ作るというだけではなく、各圏域へ展開していくのだというところを明確に出されているというのは、初めてのケースになるのではないのでしょうか。現状でも多様な子供たちを十分に受け入れ、各高校で対応はしておりますが、それを表に、しっかりと、それぞれの皆さんの対応ができる高校になっていきますよ、ということを前面に打ち出すというのは、県立ならではののかなと考えております。その中で非常に魅力的なのは、そういった配慮あるいは支援が必要な高校生の中にも、特定の能力として非常に高い能力を発揮できる可能性のある子供たちもたくさんおり、その可能性を県立高校の中で十分に引き出していくことができるという点、これも大きいのではないのでしょうか。数としては大変多いというわけにはいかないかもしれませんが、一人ひとりの可能性を最大限に伸ばすという、まさに将来構想の中心テーマですが、それができる一つの形としてアイデアルスクールを考えることができるのではないかと考えています。これまで審議されている入試制度との関連もありますが、持続可能な高校教育の環境整備ということで、アイデアルスクールのみならず、全ての県立高校がこの方向性を持ちながら取り組んでいくということは、広く県民にとっても、高校に進学する子供たちが大半のこの時代において、安心して子供たちの生活支援ができるという点から、保護者の方々や地域の期待ともつながっていく、大変重要な点であると考えておりますし、期待するところです。

【議長】（村井知事）

ありがとうございます。佐浦委員いかがでしょうか。

【教育委員】（佐浦委員）

ご指名ありがとうございます。3年ぶりの会議なので、前回のことを思い出しておりましたが、以前にお話しいただいた時に、「今度、新たなタイプの学校もできる」とおっしゃっていたのが、確か前回だったような気がします。これが色々固まってきて、アイデアルスクールの形でまとってきました。今日この資料の中で私が一番目に付いたのは「科学技術高校を設置」という点です。なるほど、いよいよという感じがします。これも勢いがついて、知事のご指導のもと進んでいくのだろうなと思っており、楽しみにしています。

それから、この資料の④を見ていて思ったのですが、下のほうに「通学や移動時間が長い生徒のため、デジタル技術の活用によりギャップを埋める対策を講じる」とあります。私たち教育委員は、時々広域で教育委員の会議があつて、私は毎回北海道の話を知ると大変感動します。ものすごく広い地域で、過疎化が進んでいる地域において、言ってみればデジタル技術を、とにかく避難的に、否応なしに活用しなければ他に方法がない、という感じで活用しているのが北海道です。これは大変参考になると思い、以前から教育委員会定例会で時々申し上げているのですが、サンプリングすることが重要ではないかと。

もしデジタル化が進み、いわゆる気仙沼のエリアや亶理のエリアなど、様々な地域がボーダーレスにネットでつながるようになってくると、自分の通っている高校がどのような高校なのか、その存在意義が希薄にならないように。県内の昨日のニュースで、7地域に分けて宿泊税の話の記事で見ましたが、いわゆるエリア分けをしたとしても、そこに高校がある。授業はボーダーレスで行うけれども、個性は失わないように、それぞれの地域の県立高校のブランド力を高めてあげる必要があるのではないかと考えておりました。

また、話は少し変わりますが、昨日一昨日、仙台一高の学園祭があり、ものすごい人で、1万人が集まるのですよ。これが、いわゆる勉強でもなく、学校のいわゆる「売り」になっている。これもブランドが形成されている形なのかなと思いますし。子供たちにとっては、「どこの県立高校を出た」とか「どこの私立高校を出た」ということではなく、「うちの高校はこんな高校だった」というのがおそらくは大事になるでしょう。「僕は高校は行ったけれど勉強はしなかったよ」という子もいるでしょうし、「僕は勉強して大学に行ったよ」という子も出てくるでしょう。大事なことは、そういった個性を作ってあげるような努力は、全体的に包括的に、例えば、障害のある子供たちも全ての学校で受け入れられる、ということは一番大切ですが、それに合わせて、それぞれの個性が育つようなことを考えてあげると、学校が独りで育っていくのではないのでしょうか。そう思った次第でございます。

【議長】（村井知事）

ありがとうございます。それでは小室委員、いかがでしょうか。

【教育委員】（小室委員）

6年くらい前にもお話をさせていただいたのですが、私、気仙沼なのですが、今、本当に学校も減ってきており、高校を子供たちが選ぶときに、本当に少ない中から選択しなければならない状況です。気仙沼は仙台のような私立学校がたくさんあるわけでもなく、本当に限られた中から「ではどこに行こうかな」「ではここでいいかな」くらいの感覚で選ぶ子がやはり多く、その高校に進んでからの3年間で、自分の目標ややりたいことを本当に見つけられるのかなと感じます。勉強はしたけれど、やはりやりたいことが違って、全く違う仕事に就き、また一から始めなければならない、という子も割と多く、そのまま仕事を辞めてしまうという話もよく聞きます。この度、私は今日で教育委員としての最後の日となりますが、この将来構想には非常に期待しております。本当にオンラインなどが使えるようになり、遠隔地の子供たちも本当に色々な勉強を選んで受けられるようになることを期待しています。以上です。

【議長】（村井知事）

長い間色々とお世話になりました。それでは、教育長、いかがでしょうか。

【教育長】（佐藤教育長）

宮城の発展を支える人材を育てていく中で、高校教育が担っている役割や期待の大きさを再認識しているところでございます。教育委員会といたしましても、少子化の急速な進展には大変危機感を抱いており、この次期県立高校将来構想は前倒しでの策定を進めておりますが、将来の予測が困難な時代と言われて久しい中で、高校の学びの在り方そのものを変化させていく必要があるのではないかと考えているところでございます。

特に、課題解決能力ですとか、新たな価値を創造する資質能力を身につけてもらうことが重要であると思っており、そのためには従来の常識にとらわれず、学科あるいは学校の枠を超えて学ぶことができる仕組みが大変有効であると考えております。そうした中で、科学技術高校というものが、その一つのコンセプトにもなっているということでございます。

また、こうした取組は、地方創生を含めた持続可能な地域づくりにも資するものと考えており、特に地域と産業界、それから専門高校の連携・協働は、専門高校の人材育成だけでなく、地方創生の視点からも非常に重要ではないかと考えているところでございます。こうした視点も含めまして、本県の未来を明るく照らせるよう、「高校教育の創造的再構築」を図っていくために、全力で取り組んでまいりたいと考えております。以上でございます。

【議長】（村井知事）

どうもありがとうございました。時間がなく、本当はもっともっとお話を聞きたかったのですが、皆さん協力していただき、ありがとうございました。

今、皆さんからお話を聞き、将来構想がどういう議論をされてこのような方向になった

のかがよく分かりました。皆さんのご意見がしっかりと反映されていると感じ、大変嬉しく思った次第でございます。

小川委員からは、子供たちが他の学校の子供たちと交流し、課題に取り組んでいく、校舎の中だけで完結するのではなく、広く視野を持つ、そういった取組が必要なのではないかと、ご発言がございました。

福興委員からは、就職を目標とするのではなく、子供たちが自立できることを考えるべきであり、アウトカムにこだわりすぎず、将来に不安を持たないよう、子供たちが自立できるところに力を入れるべきであるとのお話があり、本当にその通りであると思います。

鳩原委員からは、実生活に結びついた社会、多様な学びのニーズに対し、アイデアスクールはしっかりと合致していると。こういったものを各圏域に展開することは非常に良いのではないかと、この間お会いした方は天才で、Google が世界でチェックをする際に、作ったものをテストするために、ヨーロッパに呼ばれ、Google に招聘されたという方でした。色々なことをチェックする人なのですが、本当に面白くて、驚くほど変わった方でした。名刺を渡そうとした時に、名刺を箱ごと持ってきて、名刺入れの箱を開けたら両手が塞がってしまったら、名刺が渡せなくなりますよね。そこで慌ててしまいまして、あらら、となるような人なんです。考えられないでしょう。でも天才なんですよ。そういう人は、やはりそういった分野に進むことによって、本当に世界的な貢献をされています。それが「変わった人だ」と言って閉じ込めてしまうと大変なことになってしまいます。そういった人たちをしっかりと伸ばしていき、その能力に合った適切な場所に導いてあげることが、我々大人の責任ではないかと痛感しているところでございます。

佐浦委員からも、前回の新たなタイプの高校の発言からアイデアスクールになったということで、今回の科学技術高校は非常に良いのではないかと。北海道の事例もございましたが、デジタル化が進んだ結果、自分の学校の存在意義が結果的に失われることのないように、各学校のブランド力、個性を持つことも非常に重要であるとのお話があり、本当にその通りだと思います。特に私立高校が個性をどんどん出していく中で、公立高校は個性を出してはいけない、というようなことを言う人もいるのですが、私はそうではなく、やはり公立高校もそれぞれ個性があって良いのではないかと考えています。昔、知事になりたての頃、共学化の問題で、本会議場で高校の建学の精神がどうのこうのと話したら、副知事に「県立高校に建学の精神なんかありません」と怒られたことがあるのですが、でもやはり私は県立高校にも建学の精神というものがそれぞれあっても良いのではないかと今でも考えています。ぜひそういったことで、皆さんの力でそれぞれの学校の個性、建学の精神を持つような学校をぜひ作っていただきたいと思います。

小室委員、本当に6年間色々お世話になりました。ありがとうございました。気仙沼にいても、どこにいても、子供たちがしっかりと教育を受け、社会に出て、自分の働く場所はここだと、自分の能力を活かせる場所はここだと分かる、そういう教育をしていくことは非常に重要であると思います。そういった意味でオンラインなどもぜひ活用しながら、

子供たちの個性を伸ばせる教育をぜひ実現していただければと願っております。

教育長からは、最後に一言、従来の常識にとらわれないような学校をぜひ作っていくべきである、それが結果的に地方創生にもつながるというお話がございました。まさにその通りであると思います。私、この間、教育長から会議で、国公立大学の医学部の入学者数が、仙台二高が公立高校で全国1位であったというお話があり、宮城県もそのような形でしっかりと貢献していると聞いて安心しました。そうではない子供たち、様々な子供たちがおりますので、それぞれが能力を活かし、まさに社会に出てからその能力を発揮して、生きがいを持てる社会を作るための教育、これをぜひ皆さんと一緒に作ってまいりたいと思いますので、引き続きよろしくお願いを申し上げまして、私からのコメントとさせていただきます。どうもありがとうございました。

4 その他

【議長】（村井知事）

その他、委員の皆様からご意見等がございましたらお願いいたします。いかがでしょうか。

（意見等なし）

それでは、私の進行は以上とさせていただきます、事務局にお返しします。

5 閉会

【司会】

以上をもちまして会議を終了いたします。本日はどうもありがとうございました。

以上